



令和2年度 赤穂市立坂越中学校 学校評価・学校関係者評価

1 本年度の学校(園)経営方針

<p>1 学校教育目標 『志を高く持ち、夢に向かって主体的に学ぶ生徒の育成』 ～響く「歌声」、さわやかな「あいさつ」、あふれる「笑顔」～</p> <p>2 基本方針 (1) 子供たちが互いに信頼し合い、毎日『笑顔』で安心して生活できる学校づくりのため、日々の「歌声」・「あいさつ」を大切に、教育活動の中核に据える。 (2) 子供たちには志を高く持たせ、自分の夢の実現に向かわせるため、自身や母校、さらには地域に対する「自信」「誇り」を抱かせ、主体的に学ぶ力を身に付けさせる。 (3) 本校の伝統と文化を継承し、それを更に高く、更に深めることの大切さを謳う「坂中精神」に基づき、自ら「気づき・考え・行動」する生徒を育成する。</p>

2 本年度の学校(園)重点目標

<p>(1) 確かな学力を育成する。 (2) 豊かな心を育成する。 (3) 健やかな体を育成する。 (4) 新たな不登校を生み出さない取組を推進する。 (5) 特別支援教育の充実を推進する。 (6) 魅力ある学校づくり、地域に開かれた信頼される学校づくりを進める。 (7) 安全安心な学校づくりを進める。</p>	<p><知> <徳> <体> <不登校対策> <特別支援教育> <開かれた学校づくり> <安全安心な学校づくり></p>
--	--

総合的な学校関係者評価

○今年度も生徒アンケートで、約9割の生徒が「学校へ行くのが楽しい」と答えていることは評価できるが、言い方を変えれば1割の生徒は、楽しいと思っていないということなので、その部分を見逃さず、全ての生徒が楽しいと思える学校をめざして欲しい。

○生徒アンケートによると「授業が分かりやすい」と答えた生徒は昨年同様高い割合を示しているが、保護者アンケート結果はその数値より全体的に低く、生徒と保護者の間で認識が違う。更に、学校での授業の様子や、学習内容を保護者に周知する機会を増やしていけば良いと感じる。また、習熟度学習やグループ学習の導入で、主体的・対話的学習が、定着し効果を上げており、今後もわかりやすい授業づくりに取り組んでいただきたい。

○「困ったときに相談できる先生がいる」では、教職員の自己評価と子供の評価が大きくずれている。時間と周囲の環境によって昇華されていることも考えられるが、注意しておきたい項目である。

○最近の子供はSNSなどの利用でトラブルに巻き込まれるケースが増えていると聞くので、引き続き注意喚起をお願いしたい。

○今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、中止になる地域行事が多かったが、毎年、中学生の存在がありがたい。今後も、地域との連携・幼小との連携を深めて欲しい。

○「学校通信」は、毎月定期的に発行してくれるので、学校の様子や学校の動きがよくわかる。今後もお願いしたい。

○6校園所で相互に教員交流や連携行事を行っていることはいい事である。

○数年前に接触事故もあったので、登下校の安全指導を継続して行ってほしい。

3 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (重点目標)	評価項目(学校園・教師の取組)		評価資料	達成状況	改善の方策
	評価指標	および目標値(期待される姿)			
学習指導の 充実	項目 指標	協同学習を取り入れた困り感に寄り添う授業 生徒一人ひとりに学びのある授業の推進	生徒アンケート	B	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的な授業づくり、グループ学習の推進 英語、数学で習熟度学習の深化 毎時間プリントを用意するなど、一人一人のニーズに応じた少人数授業のあり方の工夫 モジュールを活用した学習タイムを充実させ、基礎基本の定着を図る
	項目 指標	基礎・基本を大切に授業 生徒にとって分かる授業の推進	生徒アンケート		
	項目 指標	一人一人の生徒に対応した指導 TTや少人数授業による指導	生徒アンケート		
	項目 指標	生徒の意見をつなぐ授業 多様な発言を引き出す発問	教職員自己評価		
	項目 指標				
生徒理解に つながる生 徒指導	項目 指標	いじめ、非行問題への対応 共感的理解に基づく生徒指導体制の確立	生徒アンケート 保護者アンケート	B	<ul style="list-style-type: none"> 定期的ないじめアンケートを活用した教育相談の推進 学校が一丸となった、いじめ・非行対策の推進 教育相談の持ち方(時期、回数担任の時間確保等)の工夫 生活ノートの活用や生活アンケートを活用した指導 OS等、保護者や地域住民が参加できる機会の増設
	項目 指標	家庭、地域、専門機関と連携した生徒理解 保護者、地域と連携した行事の推進	生徒アンケート 保護者アンケート		
	項目 指標	望ましい集団生活を目指す 自ら気づき、考え、行動する生徒の育成	生徒アンケート 保護者アンケート		
	項目 指標	思いやりのこころを持つ生徒の育成 共に支え合い、高めあふ生徒の育成	生徒アンケート 保護者アンケート		
	項目 指標	新たな不登校を生み出さない取組 生徒理解・保護者との連携の推進	生徒アンケート 保護者アンケート		
	項目 指標				
特別支援教 育の充実	項目 指標	特別支援教育について全員の共通理解を図る 特別支援教育学習会を毎月開催	研修会の開催及 び研修内容	B	<ul style="list-style-type: none"> 赤穂特別支援学校と連携した交流行事の内容深化 職員会議時に、特別支援教育コーディネーターを中心とした研修会の開催(今年度2回実施) 教育支援委員会の定期的な開催による共通理解(月1回) 個別支援計画、指導計画の更新
	項目 指標	教育相談と指導を適切に行う 特別支援教育校内委員会の定期的な開催	校内委員会の開 催及び協議内容		
	項目 指標				
	項目 指標				

学校関係者評価

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない X:適切でない

自己評価は 適切か	改善方策は 適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 項目ごとに多少の違いはあるが、生徒アンケート、保護者アンケートともに、良好である。どの項目についても、全員がそう思っていなければ、課題があるものとして、気を抜かず取り組んで欲しい。授業は楽しく、生徒が主体的に生き生きと参加できるよう、今後も工夫して欲しい。 習熟度学習やグループ学習の取組を継続してほしい。 第4学区の通学区域制も定着してきたようだが、保護者の最大の関心事は、わが子の卒業後の進路である。より学力の向上を望んでいるし、今後もわかりやすい授業づくりに取り組んでほしい。
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果からは、坂越中はいい学校だと感じる。今後も取組を継続してほしい。 いじめは何よりも、未然予防である。道徳の授業を中核にし、更に心の教育に時間をかけて欲しい。 いじめアンケートでは、「学校が楽しい」と感じている子供が多いが、そこに入りきれない子供にも目を向けて取り組んでほしい。 今後もいじめアンケートと連動した教育相談の継続をお願いします。日頃から、生徒と教師がふれあう時間を確保していくことも重要だと思う。
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 今後も特別支援教育コーディネーターを中心とした研修会(特に伝達講習)を定期的な実施して欲しい。 赤穂特別支援学校との連携は、とても充実していると感じる。今後も継続して欲しい。 特別支援教育コーディネーターを中心とした指導体制をさらに整備して欲しい。

観 点	評 価 項 目 (学校園・教師の取組)		達成状況	改善の方策
	評 価 指 標 (児童・生徒・園児の状態・行動)	評価資料		
人権教育の推進	項目 指標	人権教育の視点に立った教育活動 一人一人を大切にされた教育活動	生徒アンケート 保護者アンケート	B <ul style="list-style-type: none"> 主体的、対話的な場面を取り入れ、授業や生活の中で一人一人を大切にする教育活動の実践 人権教育、道徳教育の充実による、相手を思いやるこころの育成 人権教育研究紀要のまとめに向けた、人権教育研修の充実 授業のユニバーサルデザイン化
	項目 指標	感性豊かな優しい心情を育む 思いやりのある行動がとれる児童の育成	生徒作文 生徒アンケート	
	項目 指標	新たな人権教育の推進 体験的・実践的活動の充実	生徒作文 生徒アンケート	
	項目 指標			
	項目 指標			
健康安全教育の推進	項目 指標	食育の推進 「早寝、早起き、朝ごはん」運動の推進	生活アンケート 保護者アンケート	B <ul style="list-style-type: none"> 生徒の生活アンケートを生かした保健指導や保護者への啓発 外来者への声かけ及び施設等の定期的な点検及び改修 危機対応マニュアルの更新 自転車の定期検査の実施 交通ルールやマナーの定期的・継続的な指導（交通安全教室） 6校園所の連携による「早寝・早起き・朝ごはん運動」の取組
	項目 指標	危機管理体制の整備 外来者等に適切に対応できる	対応マニュアル	
	項目 指標	安全管理体制の整備 事故等に対する適切な対応	対応マニュアル	
	項目 指標			
	項目 指標			
教職員の資質向上	項目 指標	新しい情報を取り入れた研修・研究の実施 研修会の開催と研修したことを生かした実践	生徒アンケート 保護者アンケート	B <ul style="list-style-type: none"> 主体的、対話的な授業づくり研究会の実施（年1回実施） 全教員による授業公開 道徳の時間の充実のための授業研究会の定期開催（学期1回） 継続的な職員研修 外部講師（専門家）の活用 ※関西福祉大学講師 新川 靖 先生
	項目 指標	専門性を生かした教育活動の推進 専門性を高める研修会の実施と実践	生徒アンケート 保護者アンケート	
	項目 指標			
	項目 指標			
	項目 指標			

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
○	◎	<ul style="list-style-type: none"> 今後も授業において主体的、対話的な場面を取り入れ、一人一人の学びを大切にされた授業を構築していくとともに、生徒全員が自己有用感や自尊感情が高揚するよう、更に工夫して欲しい。 様々な機会を通じて、職員の資質向上に努めていただきたい。 合理的配慮についての取組を進めるなかで、インクルーシブな社会作りへ発展させて欲しい。 地域からも挨拶がよくできると評価されている。今後も継続してほしい。
○	○	<ul style="list-style-type: none"> 改善されてきてはいるが、まだまだ、自転車の乗り方、特に交差点での一時停止・1列走行等、登下校の安全確保に継続的な指導が必要と感じる。今後も徹底してほしい。 「早寝、早起き、朝ごはん」運動の意義を今後も大切にしてい、PTAへの啓発と保護者と連携した取組をしてほしい。 毎日の朝食では、ゆとりをもって食事することが難しいので、落ち着いた朝の時間を過ごさせたい。 不審者への具体的な対応についての教職員研修と生徒への指導を徹底してほしい。
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> いろんな研修会に参加して、先生自身の資質向上を図っていただいているが、先生は本当に忙しく、自分の時間を持っていないと思うので、その勤務環境も何とか改善できないものか。（先生の働き方改革の推進） これからも、学校で定期的に同様の職員研修を実施し、自己研鑽に励んでほしい。 若い先生も増えているようなので、年配の先生の技を伝えていくよう工夫してください。 外部講師の候補者も地域にいろんな方がおられるので、いつでも相談してください。

自己評価における特記事項

- 新型コロナウイルス感染症の影響の影響で、講師招聘研修も回数に限られたが、「主体的で対話的な深い学び」の研究に向け、教科指導・道徳授業等の実践に繋げながら、本年度も地道な積み上げ・成長の軌跡が見られた。
- 道徳教育について、評価の研究と共に本年度も効果的な授業づくり研究を行い、特に若手教師の意欲ある授業研究を行うことができた。道徳の授業研究については、ここ数年、継続して行っているため、これまでの成果の蓄積を今後も大切にしていきたい。更に、その積み上げとして次年度も成果を更に伸ばしていくことを考えたい。
- 今年度は、人権の発表の年になっていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、人が集まるとの発表会は中止となった。その代わりに、中学校区の6校園所が何度も集い、研究紀要として1冊にまとめ、コンパクトであるが子供の成長の過程を押さえた内容となった。予算的にも適切な金額での成果物とすることができた。
- 学校だよりを全戸回覧し、できる限り学校や生徒の様子を地域・家庭に発信し、同時に学校に対する意見を求める機会となった。地域の中学校に対する関心が更に高まり、内容についてのご意見もいただけるようになった。
- 自己評価の充実を図るため、前年度とのデータを比較できるようにグラフ化し、視覚的理解の向上に努めた。また、「生徒の意識」と「教職員の意識」、「保護者の意識」の相互のずれを比較できるように工夫し、内容の分析に役立った。
- 学校目標に「『歌声』、『あいさつ』、『笑顔』」と提示しているように、今年は、新型コロナウイルス感染症拡大予防の為に、歌声については、自粛がもめられたが、あいさつについては、生徒会が中心となって効果的に取り組んだ。
- 地域からの挨拶についての評価（手紙が数回）があり、その都度全校集会や学校便りを通して広く周知した。その結果、生徒一人一人の坂中生としての「自信」や「誇り」を、さらに高揚させることができた。
- 地域との連携を深める第1歩は、中学生による地域貢献と考え、限られた条件の中ではあるが、清掃ボランティアの実施等、精力的に実施している。更に、地域の方が学校へ足を運んでくれる機会を増やしていきたい。
- 令和2年度の総ての学校行事は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を念頭に入れた活動であった。そのため、学校運営協議会会長をはじめ、委員の方々には何度も足を運んでいただき、より適切な判断に基づき、実施することができた。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

- 子供たちの為に、労を惜しまず仕事をしてくださいます。ありがとうございます。アンケートの中にもありましたが、学校が楽しいと感じることが何よりです。細部には、いろいろな課題があるかと思いますが、子どもの目にはまず先生方の人柄に魅力を感じ、それが学習意欲やものの考え方に繋がっています。この一年も、安心して子どもを学校に通わすことができたことに感謝するとともに、これからも子供たちを支えてやってください。個人的には、6年間、子供がお世話になりました。
- 学校間で、アンケートの書式に違いがある。中学校のアンケートが見やすいが、小中学校である程度統一できればよいと思う。検討していただきたい。
- 小学校では、なかなか恥じらいがあるのか、挨拶の声が小さく感じられる。その一方で、地域から手紙が届くほど、中学校はよく挨拶ができると感じている。その秘訣を知りたい。
- 挨拶ができることはとても良いことである。今後もぜひその取組を継続してほしい。
- 老朽化の関係で、千種川にかかる人道橋が撤去されると聞いている。学校にも情報が届いていると思うが、通学路として利用している子供ももいるので、生徒にも周知してほしい。
- 幼小中の連携を更に強化させ、校区あげでの「あいさつ運動」の推進を実現させてほしい。
- ぜひ、先生方の働き改革を実行してほしい。教職を希望する子供たちは、教師の背中を見ている。子供の将来の「夢」につながる働きをお願いしたい